

競技・審判上の注意

- 1 本大会は、平成29年度(公財)日本バドミントン協会競技規則及び大会運営規程並びに公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、各都道府県代表者が代表者会議までに、大会本部へその旨を申し出てください。代表者会議以降は、各都道府県代表者(代理人可)もしくは当該プレーヤーが競技役員長(以下レフェリー)にその旨を申し出てください。(いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出してください。)また、他の都道府県と組んでいる場合、両方から提出してください。
- 3 大会運営規程第19条により棄権したプレーヤーは、それより後の同一種目及び今大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場できません。ただし、ダブルスの場合、棄権したプレーヤーのパートナーは除くものとします。
- 4 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示については大会運営規程第24条を遵守してください。また、ゼッケンを使用する場合には、必ず四隅を固定すること。
- 5 試合の進行は、試合番号順に空いたコートから入れていきます。本部より試合のコール後、10分経過しても当該プレーヤーがコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなします。また、タイムテーブルの試合開始予定時刻より早まる場合があります。
- 6 試合が連続することになった場合は、原則として試合終了後、15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
- 7 試合開始前に、2分間の練習を行います。各コートの主審による時間計測の指示に従ってください。練習は、ダブルスの場合は、パートナーと、シングルスの場合は対戦相手プレーヤーと行ってください。コーチ等のヒッティングパートナーとの練習は認めません。
- 8 審判構成は主審、線審2名、得点表示係2名でサービスジャッジは原則として配置しません。但し、準決勝、決勝は主審、サービスジャッジ、線審4名、得点表示係2名で行います。
- 9 本大会は敗者線審制とします。敗者となったプレーヤーは、当該コートで線審を担当してください。主審、得点表示係とシングルスでの敗者の場合、不足する線審については主催者側で行います。敗者線審につく際は体育館シューズ着用にご協力ください。
- 10 シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。また、使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 11 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。容器については、スクイズボトル等のフタ付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイをコートサイドに置きますので、その上に置くようにしてください。クーラーボックスの持ち込み及びコーチ席への持ち込みは認めません。なお、試合中の氷嚢の使用については、インターバルのときのみとします。
- 12 汗を手で拭い、コート内外(競技区域)に投げ落とす行為については、不品行な振舞いに相当するものとみなします。
- 13 試合中のけがや病気については、主審の判断によりレフェリーが呼ばれ、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中のけがや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 14 各コートに、コーチ席を2席置きます。ふさわしい服装で臨んでください。モバイル機器(タブレット・携帯電話等)を使用するのアドバイスやコーチングを禁止します。
- 15 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入れるのは同時に2人までとします。
- 16 マッチ(試合)中のコート又はコート周辺でのプレーヤーの携帯電話が鳴った時は、競技規則第16条第6項(4)の違反とみなされ、競技規則第16条第7項が適用されます。
- 17 レフェリーにより失格を宣告されたプレーヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 18 空気調節装置(エアコンディショナー)の使用に関しては、大会運営規程第16条によりレフェリーが判断します。
- 19 プレーヤーは試合終了時に、主審(サービスジャッジ含む)とも握手をするよう心掛けてください。